

X 方針における「改革」「課題」のレベル感について——文化施設のあり方見直しの例

をとらえて

2024 年 8 月

上山、高井

〇はじめに

・現場主体で各館別の A レベルの課題掘り起こしから始めることは重要。しかし、幹部においては、他都市と比べて質と量は妥当か、当市独特のミュージアムの直営堅持の方針が果たして持続可能か、そもそも全ての施設を今後も維持し続けるべきかといった本質課題に注力すべき (B,C レベル)。現時点での課題認識が浅い場合、改革は望めない。よって以下を検討課題例として提示したい。

1. 検討対象とする「文化施設」の範囲が狭いうえに、同列視できない施設が含まれる。事業系局が管轄する環境系等のミュージアムも棚卸し、全市のミュージアムの全体像と運営責任の所在を明らかにすべき

一ホールで主に地元市民が利用する施設は地元サービス施設とすべき・・・例えば市民会館は各区が指定管理制度のもとでサービスを競う体制に変える。運営は市役所丸抱えをやめ地元の団体・組織の参画を得るべき

(参考)他都市(大阪府堺市など)では、各区の文化会館(約400～800席)は地元市民の文化活動の場ととらえ、中核ホール(フェニーチェ堺、2,000 席)は地元以外からも集客する貸館

事業を中心に据える(ともに指定管理者)。

ー環境系など事業部局が設置したミュージアムが過剰かつ内容がアップデートできていない可能性・・・統廃合、機能集約、民間転用等を検討すべき（残す場合は、文化担当部局に所管を移し、学芸員の配備と異動のサイクルにのせて統合的に管理して内容の陳腐化を防止）

2. 総じて施設の数が人口や面積比で過剰。時代の要請にあわせ、また老朽化の状況を見ながら整理集約を考えるべき。例えば、

ーサンセット原則：現在立地、建物規模のままでの更新を前提にしない

ーアップデート原則：コンセプトや内容の更新ができない場合は民間移譲や廃止を考える（科学館や環境系は技術革新に合わせた更新が不可欠、「漫画」からゲームやeスポーツへの拡張、文学館と図書館機能の融合など）

ー美術館や科学館の「分館」はそもそも必要か。一元運用、転用、統廃合すべき

ー過去の関係者間の合意はリセットし、未来を考えゼロベースで再考すべき

3. 総じてミュージアム系は祝祭感に乏しく、時代に合わせた展示や接客のアップデートができていない。市特有の直営原則の弊害を顕著に感じる（他都市では財団による指定管理か、独立行政法人、あるいは民間への指定管理：いずれも専門家集団）

ー当市では各館に事務職員が潤沢に配備されているが、顧客ニーズを反映したサービス改善、集客イベント、他都市の類似施設との競合研究は乏しい

—また今日的課題の①域外からの集客、②DX化・キャッシュレス化、③外国人(観光客、居住者)向け対応などの課題認識も弱い

—各館に事務職員が潤沢に配備されているが彼らは定期異動のため中長期を見越した活動ができない。一方、異動のない学芸員は切磋琢磨の機会が限られる。

—館長が非常勤のため強いリーダーシップを発揮できていないと思われる

—時代に合わせた施設運営のためには「投資」と「サービス向上による増収」の好循環、前提として経営自主性の発揮とマネジメント感覚の導入(経営者の確保)が必要・・直営では困難
(参考)ミュージアムを直営とすることの弊害

利用者向けサービスの更新の遅れや劣化、過剰な事務職員に由来する煩雑かつ無用な手続きの増加、条例・規則と単年度予算主義に由来する活動の硬直性、経営感覚を備えたトップやそれを支える人材の不足、組織の縦割りに由来する館種の異なる複数館による連携、相乗効果の欠如等

—当市特有の事情によりどうしても直営を維持しなければならない理由があるならば市民が納得できる形で担当部局は説明すべき(立証責任は市役所側)。

(参考)経営形態の検討にあたっては、①ホールを運営する財団がミュージアムも分担、

②ミュージアムの独法化、③個々の館を民間の指定管理に供するかの選択となる

・現行の北九州芸術文化財団のミッションである「市民の芸術文化の振興に関する事業や埋蔵文化財の調査、研究及び保護等を行い…」には既に異なる業種(発掘とホール経営)が含まれるが、ミュージアム経営を加えることのメリットはあるか？

・学芸員は自然・歴史(19)、美術館(10)、科学館(2)の3館だけでも十分な人数が在籍し、事務職員も含めた統合の効果(シナジー、スケールメリット)は十分に想定可能

・個々の館を民間の指定管理者に供する場合、シナジー効果が期待しにくい上に、事務職員の重複や管理費の増嵩、組織間の「壁」による連携不足などの弊害が予見される

・東京都、横浜市、大阪市等の例を研究すべき

以上

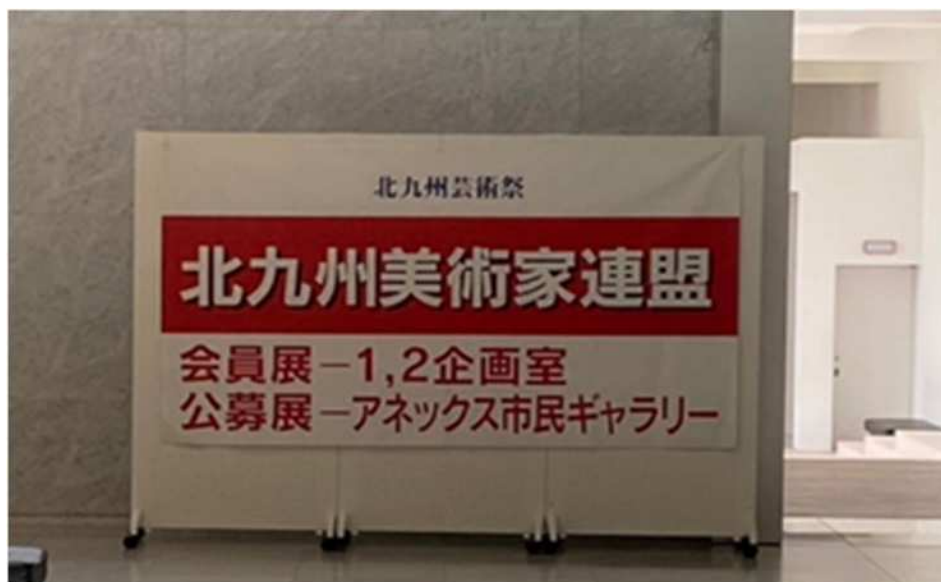
文化施設の視察で確認した課題①

①



禁止事項表示が多い（できることを案内したほうが良い印象をあたえることができる）

②



市民作品感のある案内板を美術館本館に出している

③



導線に置かれた椅子にスタッフの毛布が置かれている

文化施設の視察で確認した課題②

④



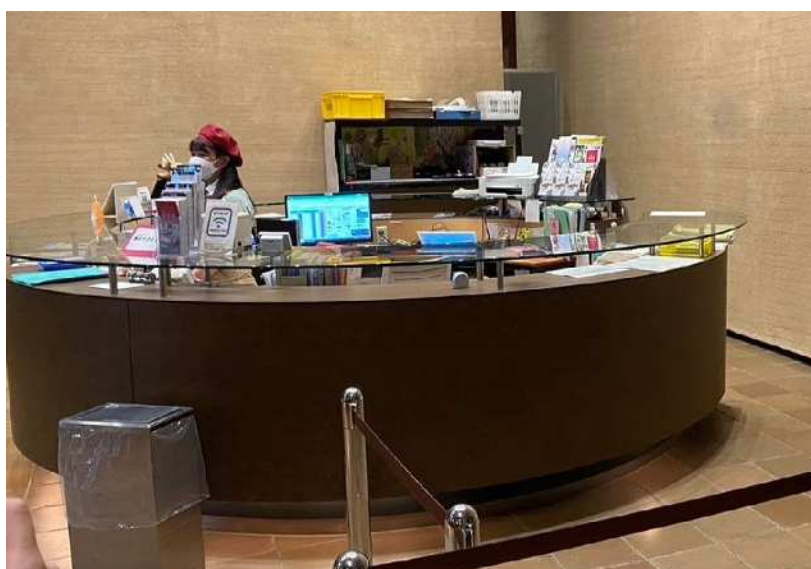
飲み物を売っているのに飲食禁止

⑤



子供向けの案内は文字を大きくする（大人向け案内と一緒にしないほうが良い）

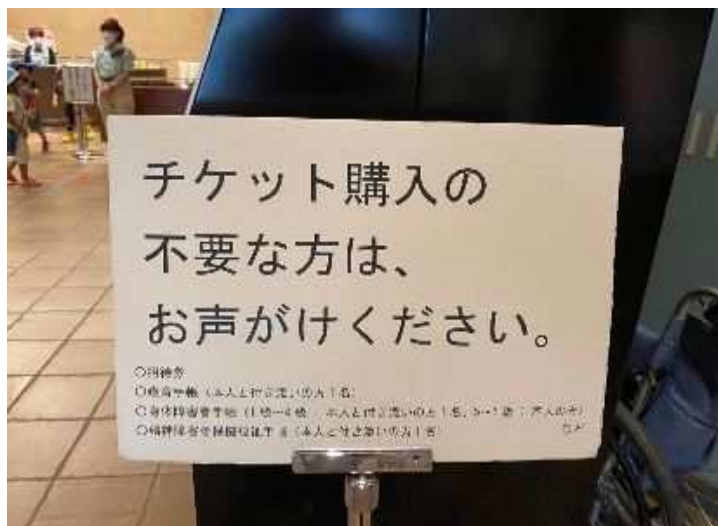
⑥



利用者から見えるところに事務用品などが置かれており、整理整頓が十分行き届いていない²

文化施設の視察で確認した課題③

⑦



購入不要な方が誰かわからない（声をかけなくてもわかるように）

⑧



いたるところに置かれているチラシ

⑨



ビル入口に案内がないので漫画ミュージアムが入居していることがわからない

北九州市立美術館視察で把握した課題

大区分	中区分	小区分	現場視察時の指摘事項
ソフト	コンテンツ		・何を売りにした常設展なのか、どういうものが展示されているのかわからない（コンセプトがはっきりしない） ・足立美術館はプレスリリースを1年前に都心で行う、どのような客をターゲットにするか徹底が必要だ ・バナーがない、祝祭感を空間使って表現すべき、今の文化施設はそうしている、常設展のみの時でもやっている ・ようこそ歓迎していますという感じ、ウェルカム感がない ・常設展のオリジナルグッズがなく、美術館に関する販売がない（磯崎新だけ） ・美術館に直接関係のない小倉織や障害福祉施設の作品が幅をきかせている ・市民ギャラリーは普通、企画展エリアに広げない、館長が職を賭しても止めるくらいの話である ・大阪も本館は絶対に市民解放せず、地下ギャラリーに限定している ・アマチュア作品をいかに切り分けるかの努力が必要、本館ではやってはいけない ・施設規模の割に常設展のボリュームが小さい、8000点は収蔵多い方だが、展示数が少ない ・今の美術館の運営のスタンダードから遅れている ・面白いものは結構あるが美術館という空間の本質理解が感じられない ・市民展のビジュアルを管理しないと美術館の格、ステータスが下がる
	サービス・ルール		
	立地		・立地は厳しい、愛知も遠いが、周辺に焼き物エリア作って、そこに美術館があるというエリア、展示の一部を空港に見せるとか、市内あちこちに作品を貸し出すなどの工夫が必要 ・地元の高齢者にシフトするか、逆に行くか、そこを決めないまま漫然としている印象である、本当に人を集めたいのなら都心へ移るべき
	人員・組織体制		・想定される仮説としては、短期は館長のあり方や企画展、中期は経営形態、長期は場所の問題である
	情報発信		
	情報収集体制		・学芸員の人達に「今の状態は駄目」という気づきや考える機会がない ・学芸員が他の施設に視察に行っているか、エントランスのバナーを知らない？
ハード	案内表示・導線	分かりにくい	・情報ラウンジの案内が分かりにくい、そもそも情報ラウンジとは何？何の部屋かわからない ・入口で何の展覧会があり、かつ展覧期間がわからない、どこに行けば何が観られるのかも不明であり、次の展覧会の日程もわからない ・眺めのいいカフェであることは美術館の入口で写真付きで宣伝すべき、入場料なしで行けると案内をするべき
		美観を損ねている	・入り口までの導線が寂しい ・美術館の案内板下に草が伸び切っている、問題と思わないのか ・撮影スポットとなる眺望のいい場所に、チラシを置くテーブルがある ・市民ギャラリー（情報ラウンジ？）のパンフレットが多すぎる ・「北九州美術家連盟」の案内板、市民作品感のある案内板を美術館の本体部分に置くべきではない
		利用者への配慮が不足している	・7つも禁止事項があるのはここくらいではないか、撮影と傘くらいにするべき ・美術館で飲食をしようとする人はそもそも想定できない、飲食禁止は事前に注意しておけば良い
		効果が低い	・カウンターに「使用できるカード」の表示を2種類置いているが、同じ情報は2つ要らない ・カフェ入口に、別の店の宣伝ポスターがある ・同じ内容の表示が複数ある ・トイレ、水飲み場、ロッカー横にチラシを置くべき、その他の場所ではチラシを手にとれないし、億劫なので取らない ・関係のないチラシが多い
	設備	美観を損ねている	・傘立ての置き場所も何か工夫できるはずだ ・電卓等の事務用品、スタッフ席の毛布など、文化施設で楽屋裏を見せるのはNGだ ・ロッカーの奥も物置として使っており、それが入館者に見える状態になっている
		利用者への配慮が不足している	
		老朽化が進んでいる	

いのちのたび博物館視察で把握した課題

大区分	中区分	小区分	現場視察時の指摘事項
ソフト	コンテンツ		・（企画展をやっていないとしても）バナー等がなく祝祭感がまったくない
	サービス・ルール		・親子デスク・子どもデスクを設置していろいろサービスしたらどうか
	立地		・今の時代、図書館や児童館は条件付き飲食ＯＫの流れ。子育て世帯を考え、全面ＯＫとはいかないまでも、条件付きで許可できないか（申請ベースでＯＫ、一部の場所開放、ステッカー配布など）
	人員・組織体制		
	情報発信		・子ども連れの客を見なかったので、子育て世帯向け、子供目線で改善の余地がある ・お客様コンシェルジュなどの特別対応を打ち出せばニュースになる
	情報収集体制		・顧客満足度の情報が不足している
ハード	案内表示・導線	分かりにくい	・入口前の案内・掲示物の字が小さい、子どもが読めない ・入ってすぐの案内が暗い、何の案内であるのかが不明である ・子ども向けの張り紙は上ではなく背が低くても読めるように下の方に設定するべき ・子どもむけ案内なのに小さな文字が多すぎる、子ども向けの案内と大人向けの案内は分けること ・折り鶴を飾っているが意味不明、「折り紙ができるよ」などの案内をするべき ・休止中の券売機に「休止中」の案内がなく、戸惑う（暗い画面をタッチして操作しようとしてしまう人がいる） ・「他都市割引や障害手帳の割引案内」とあちこちにべたべた貼らない、大多数の人には無関係であり、券売機よりも手前で「以下の方は無料です」などと案内すればよい ・「チケット購入不要の方はお声かけ下さい」の立て札は不親切で、「購入不要の方」が誰なのかわからない 誰がどこに声をかければよいかも不明であり、聞いてくださいのマインドでは駄目で、ひと目見てわかるのがサインである ・閑散期なので5台の券売機のうち4台を休止しているが、唯一の稼働券売機が一番奥になっており不親切だ ・自動販売機で飲み物など売っている場所に飲食禁止の張り紙がある、掲示する場所が違う ・「歴史ゾーン・自然史ゾーンとだけ書かれたポスター」は意味が分からない ・「大きい荷物はフロントでお預かりします」の案内がない ・ベビーカーの貸出場所の案内表示が欲しい
		美観を損ねている	・「こどもミュージアム」のラベルが汚れ、雰囲気損ねている ・5台の券売機の上部、一等地の場所に「他都市割引や障害手帳の割引案内」が3枚と「歴史ゾーン・自然史ゾーンとだけ書かれたポスター」が2枚貼られているが、汚くて無駄である ・AEDの貼り紙が破損して美観を損ねている ・頭上に「15周年（2017年?）」の掲示が残っている ・数年前の料金改定の案内をいまだに表示しているが、はがすべきである
		利用者への配慮が不足している	・「5時閉館です」の表示、「ご協力お願いします」とは書かないのが他の標準である ・禁止案内はできるだけ少なく、「～できます」のほうがよい ・床の整列線に赤い線はやってはならない。赤い線はきわめて危険な場所だと知らせる際にのみ使用するもの ・ショーケースは商品に触ったらダメの案内ではなく、「手に取って見たい方はお声かけ下さい」と変える そもそも売り物かどうかかわからない
		効果が低い	・チラシ棚に1種類のチラシだけが占めている ・同じ内容の表示が複数ある
	設備	美観を損ねている	・北九州市立の施設はたくさんの傘立てが入口のいちばんいいところに置いてある（雰囲気を壊している） ・入口のスペースが窮屈。素晴らしい展示があることをイメージできない ・かごや事務用品、書類など汚い物を入館者が見えるところに置くべきではない ・備品も通路から見えるところに置くべきではない ・古びた備品が入館者の目に入るところに放置されている、使わなくなった冷水器に古びた張り紙など、絶対に駄目 ・ショップでは、商品の段ボール箱を客から見えるところに積み上げている ・カウンターが3つも置かれているが、それぞれ何のカウンターが役割が分からない ・ベビーカーの貸し出しはよいが、狭く雑然とした印象、置き場所を考えるべき
		利用者への配慮が不足している	・ロッカーが小さい
		老朽化が進んでいる	

北九州市漫画ミュージアム視察で把握した課題

大区分	中区分	小区分	現場視察時の指摘事項
ソフト	コンテンツ		- サイン色紙の飾り場所が目立たず、利用者が一目で気づく場所ではないのが残念だ せっかくの「ウリ」なのに5階と6階の2か所に分散しているのももったいない - 物販コーナーのところのほうが見えやすい - 展示フロアの企画展と常設展の上下が逆で、わかりにくい（通常、常設展が下の階、企画展が上の階） - 松本零士コーナーの目立たせ方、松本零士とわたせせいぞうと北九州ゆかりの漫画家を取り扱われていて平べったい - このビル全体で民間に音頭を取ってもらって良くしていくべき（1、2階はショップ、3、4階はプレイゾーン、5、6階は展示エリアなどコンセプトの統一を） - あるあるcityの名前も分かりにくいので、「ポップカルチャーセンター」にしたほうがわかりやすい - 漫画そのものが中年から高齢者に響くもの、5階の企画展エリアを見直し、スポーツや（カード）ゲームなどデジタル系にするとか、ジブリやポケモン、マリオなど中間層（若者と中・高齢者）に向けたコンテンツも抜け落ちている
	サービス・ルール		コロナが終わっても寝そべり禁止なのか、禁止の根拠があるのか、寝そべりを禁止しておいて「ゆたっと広場」はありえない、利用者のフラストレーションが溜まる
	立地		
	人員・組織体制		- 事務職員の人数が多くないか、複数施設の掛け持ち（巡回）で対応できる部分があるのではないか - 企画の評価委員会はあるのか
	情報発信		映像は「ここでしか見られない」、「20分で見れる」などの表示をするべき
	情報収集体制		
ハード	案内表示・導線	分かりにくい	- 利用者目線で見えやすい場所に案内掲示が行われておらず、導線がわかりづらい - 案内の文字が小さくて見えにくい - リーフレットの部屋番号と音声ガイド番号の数字がずれていてわかりづらい - 撮影可の案内が小さくてわかりにくい、わかりやすくしたほうが良い （ドア前に掲示されている）時計の場所がよくない - 出口・トイレのぶら下がりが札パッドが古びている、文字も切れていてわかりづらい （トイレ案内など）壁のサイン周囲にポスターを貼らず、シンプルにするべきだ - 中国人向け案内の文字が小さい、「手に取って良い」と中国語で案内しないとわからない 1階、2階に漫画ミュージアムの案内がなく、この建物に漫画ミュージアムがあることがわからない
		美観を損ねている	- 入口の「のぼり」はこういう施設にそぐわない （トイレ案内の）男性は青、女性は赤の色分けは、いまどきの施設運営の在り様にそぐわない - 施設に無関係なチラシは展示や空間の魅力を損なう、施設のコンセプトを大事にしない、役所的な対応になっている、置くらな1箇所にまとめるかバックでまとめて渡しがよい - ポスターを張りすぎていて汚い（無関係なバレーボールの試合のポスターが多い） - ガラス嵌め込み壁のガラスにポスターを貼っており、建築家がこだわっているはずの意匠が台無しになっている - 漫画の閲覧ゾーンのポスターに無駄なものがあり、汚れている
		利用者への配慮が不足している	- 禁止事項を伝える際に×印を掲示するのはNG、撮影禁止ポストが乱立、ダメマークが多すぎる 「～できます」と案内するべき - 特に、赤の×印の表示は命に関わる所だけにすべき、禁止事項は入口でまとめて案内するなどしたほうがよい 「監視」という文字は使うべきでない
		効果が低い	- 同じ内容の掲示は2つ要らない（壁と天井からぶら下げている案内板） - サインの基本はいかに少なくするか一定の歩くスピードの中で、人に見てもらう情報には限りがある、無駄遣い - チラシをいろんなところに置きすぎで、取りにくいし取らなくなる - 宣伝ポスターはイーゼルで掲示すべき、注意を惹きたいのであればパネルにすべき
	設備	美観を損ねている	- ロッカーの位置が正面入口付近にある - のぼりが施設の雰囲気合っていない - 公共施設としての問題点と美術施設のセンスの問題だ
		利用者への配慮が不足している	消火設備がのぼりで隠れている
		老朽化が進んでいる	

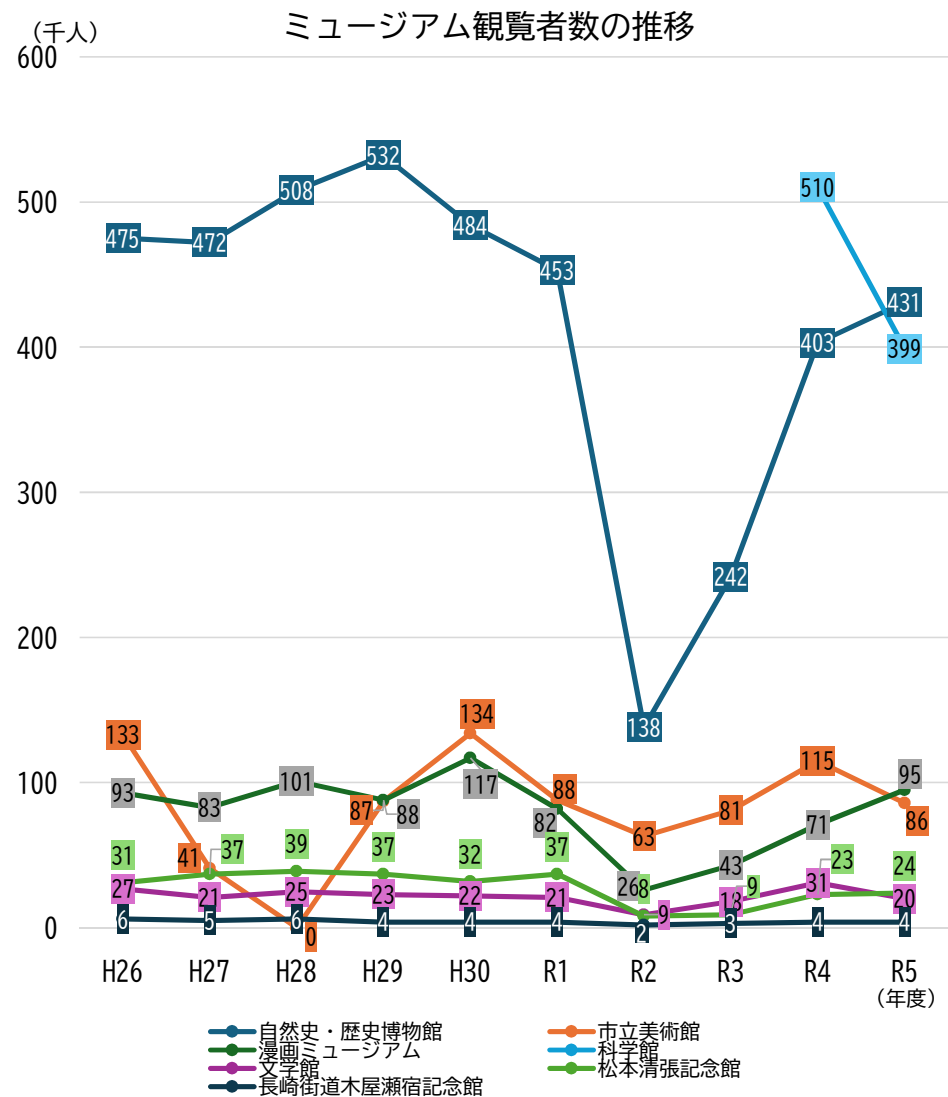
スペースLAB0視察で把握した課題

大区分	中区分	小区分	現場視察時の指摘事項
ソフト	コンテンツ		・ 1 階の見どころは安川ロボットと竜巻のみで、それ以外は行政目線、プロダクトアウトの展示で利用者にとっての価値は乏しいように思える ・ 1 階は見えてわかる子供向け展示（ロボと竜巻など物理的な大きいものやTOTO 技術など）に特化したらどうか ・ 2 階の展示は、学校で習った事を体感する展示になっているが、発想が古典的すぎないか ・ 最先端のサイエンスを見せるべき、アメリカでは医療やバイオ分野などの展示がある ・ 2 階に理科の先生がいない、工作などの体験型展示にはANNEX から人を持ってくる、民間（リバネス）への委託なども考えられる
	サービス・ルール		・ 飲食禁止はアウトレットとの取り決めとのことだが、子連れ客のことを考えれば飲食OKにするべき ・ 大きい子どもが展示を見ている間、ここで小さい子どもに食べさせるなど正当なニーズがある ・ この場所での小さい子の飲食がどれだけ他店の営業の妨げになるのか、ニーズを調べて必要なら交渉するべき ・ キャッシュレスに対応していない ・ ANNEXに関連して、本館でも平日に工作や体験教室などやるべき、別の建物だけでやる意味がわからない ・ ANNEXが本館と全く連携できておらず、相互の誘客もやる気がない
	立地		
	人員・組織体制		・ 事務職員が極めて多い印象である
	情報発信		・ 親子連れに対する情報発信が不足している
	情報収集体制		・ 顧客満足度の情報が不足している
ハード	案内表示・導線	分かりにくい	・ 入口の予約案内の文字が小さく見にくい、2 か所あるが、違いが不明である ・ 予約なしでも入館可能なのがわからない ・ 子ども向けの案内の場所は目線をもっと低くするべき ・ 「やさしく扱って下さい」の案内は入口ではわからないので、やさしく扱ってほしい展示物の前で表示するべき ・ キャリーバックは禁止でなく預ければよいのであればサインは消すか、そのようなサインに変えるべき ・ この案内では外国人は理解できない、むしろ荷物預かりサービスがあるとPRしたほうがよい ・ 何の施設かわからない施設名（そもそもラボではない）、プラネタリウムをもっとアピールするべき ・ 1 階に竜巻発生装置があることが全く分からない、写真を入口前に掲示するなどもっとPRするべき ・ 1 階のロボットも展示説明が不足（安川の産業用ロボットであることの説明がない）している
		美観を損ねている	
		利用者への配慮が不足している	・ 禁止事項が多い ・ むやみに×印を掲示するのは不快感を与えるので、「～できます」という案内で統一するべき ・ 親子連れ客に対する配慮や発信がない、おむつ取替えはできるのか、ベビーカー大歓迎くらいやるべき ・ 「飲食禁止」は「入口でお飲みください」と肯定型で案内するべき
		効果が低い	・ 今後開催の企画のポスターなら「今度やるからまた来てね」などのメッセージを加えるべきで、掲示場所についても、エスカレーター前ではだれも見ないので、出口に掲示するべき
	設備	美観を損ねている	
		利用者への配慮が不足している	
		老朽化が進んでいる	

(単位:千人)

施設名	自然史・ 歴史	美術館 (※)	漫画M	科学館	文学館	松本記念	長崎街道
H26年度	475	133	93		27	31	6
H27年度	472	41	83		21	37	5
H28年度	508	0	101		25	39	6
H29年度	532	87	88		23	37	4
H30年度	484	134	117		22	32	4
R1年度	453	88	82		21	37	4
R2年度	138	63	26		9	8	2
R3年度	242	81	43		13	13	3
R4年度	403	115	71	510	31	23	4
R5年度	431	86	95	399	20	24	4
平均	413.8	92.0	79.9	454.5	21.2	28.1	4.2

(※) 2016年度は集計対象から除外



文化施設の職員（事務職員、学芸員）数内訳一覧

施設名		自然史・歴史博物館	美術館	科学館	漫画ミュージアム	文学館	松本清張記念館	長崎街道木屋瀬宿記念館	合計
事務職員	正規	11	7	12	5	4	4	2	45
	非正規	5	2	9	1	0	1	1	19
学芸員	正規	18	5	2	1	3	2	0	31
	非正規	1	5	0	4(2)	0	0	1	11(2)
合計	正規	29	12	14	6	7	6	2	76
	非正規	6	7	9	5(2)	0	1	2	30(2)

環境系含むミュージアム施設

施設分類	施設名	所管局	所管課	複合の状況	主たる施設名	建築年度	運営形態
漫画ミュージアム	北九州市漫画ミュージアム	都市ブランド創造局	漫画ミュージアム事務局	複合	あるあるCity	1992	直営
その他市民文化系施設	北九州市折尾まちづくり記念館	総務市民局	地域振興課	複合	折尾駅高架下複合公共施設	2022	指定管理
美術館・博物館等	科学館(スペースLABO)	都市ブランド創造局	管理課			2022	直営
	科学館分館	都市ブランド創造局	管理課			2006	直営
	黒崎市民ギャラリー	都市ブランド創造局	美術館普及課	複合	COM CITY	2001	直営
	松本清張記念館	都市ブランド創造局	松本清張記念館			1998	直営
	長崎街道木屋瀬宿記念館	都市ブランド創造局	長崎街道木屋瀬宿記念館			2000	直営
	文学館	都市ブランド創造局	文学館	複合	北九州市立文学館	1974	直営
	自然史・歴史博物館	都市ブランド創造局	自然史・歴史博物館普及課			2000	直営
	美術館分館	都市ブランド創造局	美術館普及課	複合	リバーウォーク北九州	2003	直営
	美術館	都市ブランド創造局	美術館普及課			1974	直営
	北九州市平和のまちミュージアム	総務市民局	平和のまちミュージアム			2021	直営
環境施設	北九州市ほたる館	都市整備局	水環境課			1972	指定管理
	香月・黒川ほたる館	都市整備局	水環境課			1976	直営
	水環境館	都市整備局	水環境課			2000	指定管理
	北九州市響灘ビオトープ	環境局	再生可能エネルギー導入推進課			2012	指定管理
	北九州市環境・コミュニティセンター	環境局	環境監視課	複合	明銀ビル	1974	直営
	北九州市エコタウンセンター	環境局	サーキュラーエコノミー推進課			2001	指定管理
	北九州市環境ミュージアム	環境局	環境学習課			2001	指定管理

ホール系施設一覧

施設分類	施設名	所管局	所管課	複合の状況	主たる施設名	建築年度	運営形態
劇場・ホール	響ホール	都市ブランド創造局	文化企画課	複合	国際村交流センター	1993	指定管理
	北九州芸術劇場	都市ブランド創造局	文化企画課	複合	リバーウォーク北九州	2003	指定管理
旧九州厚生年金会館	旧九州厚生年金会館	都市ブランド創造局	文化企画課			1982	貸付
市民会館	黒崎文化ホール	都市ブランド創造局	文化企画課			2012	指定管理
	旧百三十銀行ギャラリー	都市ブランド創造局	文化企画課			1915	指定管理
	大手町練習場	都市ブランド創造局	文化企画課	複合	北九州市大手町ビル(ムーブ)	1995	指定管理
	戸畑市民会館	都市ブランド創造局	文化企画課	複合	ウェルとばた	2002	指定管理
	若松市民会館	都市ブランド創造局	文化企画課	複合	若松市民会館	1985	指定管理
	門司市民会館	都市ブランド創造局	文化企画課			1957	指定管理